

# 社会教育調査研究事業の歩み

年度	研究主題	研究の目的・内容	研究期間・研究委員長
S51	在学青少年と社会教育の在り方 「実態把握と実践への学習プログラム」	◎ 在学青少年の実態・志向の調査、実践へのプログラム作成 ① 在学青少年の意識志向調査 ② 在学青少年の実態活動調査 ③ 親の志向、意識調査 ④ 民間指導者の意識調査	昭和51年度～52年度 (1年次) 後志社会教育主事会長 小山内 登(京極町)
S52	在学青少年と社会教育の在り方 「実践プログラムと評価」	◎ 51年度に作成した学習プログラムの実践と評価 〔北〕 青少年の長期休業中のスポーツプログラムの実践と評価 〔南〕 心と体をきたえる少年のスポーツ活動の実践と評価 〔岩宇〕 これからの岩宇共同事業の在り方 〔山麓〕 生涯学習の推進とネットワーク	昭和51年度～52年度 (2年次) 後志社会教育主事会長 三浦 一彦(共和町)
S53	コミュニティづくりに果たす 社会教育行政の役割 「家庭生活と学習活動についての調査」	◎ 管内住民の生活実態や学習意欲・学習欲求の実態把握 ① 各地域別(商店・団地・農業・漁業)の意識・行動調査 ② 各対象別(青年・婦人・成人・高齢者)の意識・行動調査	昭和53年度～54年度 (1年次) 後志社会教育主事会長 西岡 孝一(蘭越町)
S54 No. 10	コミュニティづくりに果たす 社会教育行政の役割 「実践への視点の究明と実践事例」	◎ 53年度の意識・行動調査の分析と考察と社会教育行政上の問題点や課題を解明する	昭和53年度～54年度 (2年次) 後志社会教育主事会長 西岡 孝一(蘭越町)
S55 No. 12	生涯教育充実のための社会教育事業の在り方	◎ 生涯教育に関する共通理解をはかり、その観点に立った各分野の学習プログラムの試案を作成する 〔北〕 高齢者教育事業の在り方 〔南〕 在学青少年の社会教育事業の在り方 〔岩宇〕 幼児期における家庭教育事業の在り方 〔山麓〕 広域的な社会教育事業の推進方策	昭和55年度～56年度 (1年次) 後志社会教育主事会長 荻野 八郎(寿都町)
S56 No. 16	生涯教育充実のための社会教育事業の在り方 「実践への視点の究明とその事例」	◎ 56年度に作成したプログラム試案の実践と評価をする 〔北〕 高齢者教育事業の評価 〔南〕 在学青少年の社会教育事業の在り方 〔岩宇〕 幼児期における家庭教育事業の在り方 〔山麓〕 広域的な社会教育事業の推進方策	昭和55年度～56年度 (2年次) 後志社会教育主事会長 上木 莊六(留寿都村)
S57 No. 19	青少年の現状とその教育の在り方	◎ 青少年の生活意識や青少年育成機関等の現状と課題を把握 〔北〕 青少年教育に係わる中期計画策定の方向を方策について 〔南〕 青年の今日的課題と事業の在り方(青年の意識調査) 〔岩宇〕 青少年育成機関等の現状と課題 〔山麓〕 青少年の生活意識と実態調査	昭和57年度 後志社会教育主事会長 富田 道紹(喜茂別町)
S58 No. 23	社会教育充実のための研究	◎ 57年度の調査研究に基づき、望ましい青少年育成事業の在り方を検証する 〔北〕 青少年教育とコミュニティ形成の接点をさぐる 〔南〕 青年の今日的課題と事業の在り方 〔岩宇〕 地域ぐるみの青少年健全育成体制 〔山麓〕 農村青年に対する教育的課題と方策	昭和58年度 後志社会教育主事会長 富田 道紹(喜茂別町)
S59 No. 25	地域教育力活性化に関する研究	◎ 青少年の健全育成に係わる「地域教育力の活性化」を目指して地域と学校、社会教育の連携・協力事業の実践事例を紹介する	昭和59年度 研究委員長 三浦 一彦(共和町) この年から所員4人と研究協力員6人による研究員会を組織
S60 No. 29	社会教育の充実に関する研究 「家庭教育の充実を図るために」	◎ 「地域教育力の活性化」に関する研究の発展段階として、家庭教育機能充実を図るために子どもの発達段階に応じた家庭教育の内容や方法を把握し、実践事例を紹介する	昭和60年度 研究委員長 竹花 迪務
S61 No. 33	社会教育の充実に関する研究 「社会教育行政計画の作成」	◎ 生涯教育の観点にたった人づくりやまちづくりをめざし、社会教育の基本となる社会教育行政計画の全体構想立案の手順や方法を明かにする	昭和61年度 研究委員長 西田 繁(岩内町)
S62 No. 38	社会教育の充実に関する研究 「社会教育事業の評価」	◎ 生涯学習の考えに立ち、社会教育事業を的確に評価するための観点や尺度を明らかにし、社会教育事業の立案に役立つ評価のあり方を検証する	昭和62年度 研究委員長 早瀬 良樹(寿都町)
S63 No. 41	社会教育の充実に関する研究 「高齢者教育のあり方について」	◎ 人生八十年時代に対応する学習活動を推進するために、高齢者の発達課題や学習課題及び生活課題を整理し、高齢者の学習活動例を提示する 〔北〕 高齢社会に対応するための高齢者教育のあり方 〔南〕 今後の高齢者教育事業のあり方 〔岩宇〕 高齢者の生きがいと学習活動に関する調査 〔山麓〕 生涯教育の観点に立った高齢者教育のあり方	昭和63年度～平成2年度 (1年次) 研究委員長 早瀬 良樹(寿都町)
H元 No. 43	社会教育の充実に関する研究 「高齢者教育のあり方について」	◎ 管内の教育行政や一般行政、関係機関・団体における高齢者学級等の学習機会の活動実態を調査し、現状と課題を明らかにする 〔北〕 高齢社会に対応するための高齢者教育のあり方 〔南〕 今後の高齢者教育事業のあり方 〔岩宇〕 よりよい高齢期を迎えるための社会教育事業のあり方 〔山麓〕 生涯教育の観点に立った高齢者教育のあり方	昭和63年度～平成2年度 (2年次) 研究委員長 永井 克憲(余市町)

# 社会教育調査研究事業の歩み

年度	研究主題	研究の目的・内容	研究期間・研究委員長
H2 No. 47	社会教育の充実に関する研究 「高齢者教育のあり方について」	◎ 平成元年度の調査に基づく課題解決への取り組みや広域事業実践と評価をする [北] 高齢社会に対応するための高齢者教育のあり方 [南] 今後の高齢者教育事業のあり方 [岩宇] よりよい高齢期を迎えるための社会教育事業のあり方 [山麓] 生涯教育の観点に立った高齢者教育のあり方	昭和63年度～平成2年度 (3年次) 研究委員長 永井 克憲(余市町)
H3 No. 49	社会教育の充実に関する研究 「婦人の意識調査」	◎ 後志管内の婦人の生活や学習活動に関する意識調査を行い、現状と課題を明かにする	平成3年度 研究委員長 永井 克憲(余市町)
H4 No. 51	社会教育の充実に関する研究 「向老教育について」	◎ 過去三年間の高齢者教育に関する研究で新たな課題として浮かんできた「向老教育」の必要性を各年齢層別の学習課題を明かにする [北] 高齢化教育と向老教育 [南] 各年齢層の学習課題と向老教育 [岩宇] これからの向老教育のあり方 [山麓] 向老教育の学習課題とその現状	平成4年度～5年度 (1年次) 研究委員長 葛西 良紀(京極町)
H5 No. 54	社会教育の充実に関する研究 「向老教育について」	◎ 管内各市町村における向老教育事業の洗い出しと、学習課題に沿った学習プログラムの再編成と学習プログラム作り ① 管内における6領域別の成人の学習機会 ② 管内における向老教育の現状 ③ 向老教育学習プログラム	平成4年度～5年度 (2年次) 研究委員長 葛西 良紀(京極町)
H6 No. 56	生涯学習社会実現のための社会教育のあり方 「現代的課題への対応」	◎ 現代的課題に対応する社会教育事業のあり方を明らかにし、各ブロックにおける学習機会の現状と課題を整理する	平成6年度～7年度 (1年次) 研究委員長 田中 勝義(島牧村)
H7 No. 58	生涯学習社会実現のための社会教育のあり方 「現代的課題への対応」	◎ 現代的課題に対応する社会教育事業のあり方を明らかにし、課題解決に向けた学習プログラムの作成と実践、評価をする [北] 「積丹町民文化教室」とおとして [南] 「南後志ブロック高齢者学級交流会」とおとして [岩宇] 「社会教育共同事業「第32回岩宇地区婦人研修会」とおとして」 [山麓] 「山麓町村高齢者学級交流会」とおとして	平成6年度～7年度 (2年次) 研究委員長 河田 茂(蘭越町)
H8 No. 60	生涯学習社会実現のための社会教育の在り方 「生涯学習推進のためのネットワークの在り方」	◎ 後志管内の生涯学習推進のためのネットワーク化の在り方について、現状と課題を整理する [北] 少年を対象としたブロックの広域事業をとおとして [南] 南ブロック4ヵ町村の学習機会情報ネットワークの開発 [岩宇] これからの岩宇広域事業の在り方 [山麓] 生涯学習の推進とネットワーク	平成8年度～9年度 (1年次) 研究委員長 河田 茂(蘭越町)
H9 No. 62	生涯学習社会実現のための社会教育の在り方 「生涯学習推進のためのネットワークの在り方」	◎ 後志管内の生涯学習推進のためのネットワーク化の在り方について、課題解決のための学習プログラムの開発と実践、評価をする [北] 少年を対象としたブロックの広域事業をとおとして [南] 学習施設情報ネットワークの開発 [岩宇] これからの岩宇共同事業の在り方 [山麓] 生涯学習の推進とネットワーク	平成8年度～9年度 (2年次) 研究委員長 河田 茂(蘭越町)
H10 No. 64	学社融合の研究 「子どもたちに生きる力を育むために」	理論研究 ① 講義「学社融合の理念と今後の在り方」 ② 講義「学社融合の課題ー学校・家庭・行政の役割」 ③ 各市町村における学社融合事業の調査	平成10年度～11年度 (1年次) 研究委員長 濱上 俊治(岩内町)
H11 No. 67	学社融合の研究 「子どもたちに生きる力を育むために」	① アンケートの実施、分析 ② 今後に向けての課題の検討 ③ 学社融合モデル事業	平成10年度～11年度 (2年次) 研究委員長 濱上 俊治(岩内町)
H12 No. 69	後志管内における学社融合に関する研究	① 学社融合の共通理解を図るとともに学校教育の新たな動きを研修する ② 学社融合の実践事例を調査する。 ③ 学校教育の求めている分野・題材・人材等の情報収集と分析	平成12年度～13年度 (1年次) 研究委員長 山本 博之(小樽市)
H13 No. 71	後志管内における学社融合に関する研究	実践研究 ① 学社融合に関する市町村の事業の整理 ② 学社融合に関する市町村の事例の研究	平成12年度～13年度 (2年次) 研究委員長 山本 博之(小樽市) 研究委員長代行 宮崎 勝雄(共和町)
H14 No. 74	住民の学習ニーズに応えた社会教育事業の在り方に関する研究	① 住民のニーズのとらえ方の手法について ② 住民のニーズをとらえた社会教育事業の事例調査 ③ 住民の学習ニーズをとらえた事例の実践例について	平成14年度～15年度 (1年次) 研究委員長 鈴木 昌裕(仁木町)

## 社会教育調査研究事業の歩み

年度	研究主題	研究の目的・内容	研究期間・研究委員長
H15 No. 77	住民の学習ニーズに応えた社会教育事業のあり方に関する研究	① 住民の学習ニーズを取り入れた事業の事後評価について ② 住民の学習ニーズをとらえた事業の展開及び評価について ③ 住民の学習ニーズをとらえた事業の課題解決に向けた研究	平成14年度～15年度 (2年次) 研究委員長 鈴木 昌裕(仁木町)
H16 中間報告	「ネットワークを生かした社会教育事業のあり方」～家庭教育を支援するための課題解決について～	① 家庭教育の支援概念を明確にする ② 家庭教育の支援の問題点を洗い出し・課題を把握する	平成16年度～17年度 (1年次) 研究委員長 宮崎 勝雄(共和町)
H17 No. 74	「ネットワークを生かした社会教育事業のあり方」～家庭教育を支援するための課題解決について～	① 課題解決のための目標設定 ② 推進する必要性と背景の把握(理論研究) ③ 「ネットワークを生かした家庭教育支援事業」取組状況の把握・整理 ④ 結果分析と考察	平成16年度～17年度 (2年次) 研究委員長 宮崎 勝雄(共和町)
H18 中間報告	「社会教育事業評価の在り方」	◎ 基本となる評価表を作成し、そ評価表を使って管内社会教育推進資料「後志から教育推進のために」の各領域の評価を行い評価表の課題や問題点を探る [北] 「青少年教育の充実」「生涯学習の推進」 [南] 「地域教育力の活性化」「スポーツの振興」 [岩宇] 「成人教育の充実」「社会教育行政の推進」 [南] 「地域教育力の活性化」「スポーツの振興」	平成18年度～19年度 (1年次) 研究委員長 濱上 俊治(岩内町)
H19 No. 83	「社会教育事業評価の在り方」	◎ 1年次行った評価からの課題や問題点を踏まえ、各市町村で使用できる評価表を作成する ① 評価指標の検討 ② 評価表の活用(青少年教育事業での評価) ③ 評価表の作成	平成18年度～19年度 (2年次) 研究委員長 濱上 俊治(岩内町)